

調査結果の概要

■ 平成30年度の成果

- 調査対象種170種の分布情報を整理し、メッシュ情報に変換した。
- 植生の分布予測モデルを作成し、将来(21世紀中頃、21世紀末)の分布の予測を試行した。
 - ① 亜高山帯針葉樹林の分布適地は、RCP8.5では21世紀中頃に消失する可能性がある。
 - ② 落葉広葉樹林の分布適地は将来大幅に減少し、四国ではほぼ消失する可能性がある。

■ 明らかとなった課題

- 植生の分布予測モデルの精度(特に針葉樹林の分布)を高めるためには、地形条件を組み入れる必要がある。
- 落葉広葉樹林から常緑針葉樹林への変化が生じる可能性が予測された。植生の種類の変化による影響についても分析が必要である。

■ 平成31年度の調査計画

- 地形条件を変数に組み込んだ植生の分布予測モデルを作成する。
- 希少植物の分布情報と植生分布の予測結果を重ね合わせ、地域や山系ごとに影響を評価する。
- 影響評価の結果を踏まえて、適応策を検討する。

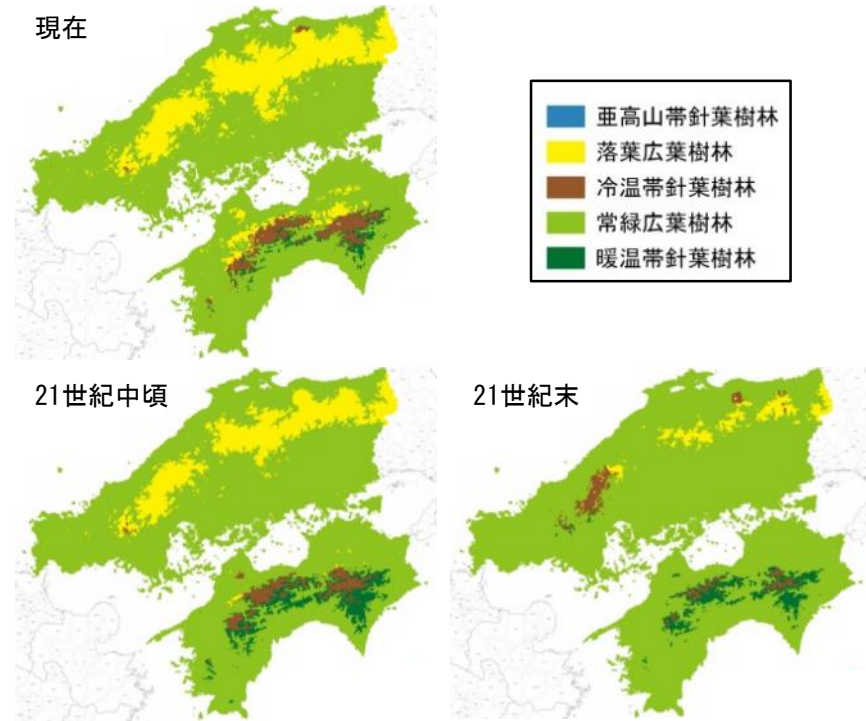


図 植生分布適地の予測結果(MRI-CGCM3, RCP8.5)

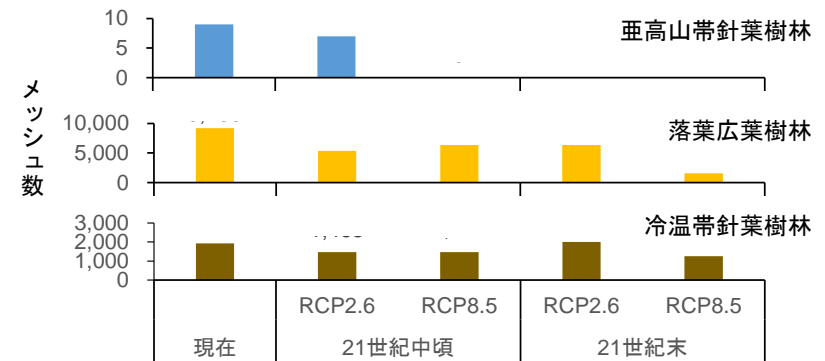


図 植生分布適地のメッシュ数の変化(MRI-CGCM3)

注:本結果は、今後検証・改良を予定している予測モデルを使用した暫定的なものである。